

玉造厚生年金病院広報誌

夕映え

2006 夏号 vol.9

— 理念 —

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこなう安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



在宅高齢者への支援 訪問リハビリテーションの取り組みから

言語聴覚士 松本 秀子

介護保険制度の導入から5年が経過し、制度運営上の問題点や課題等が整理され、今年4月、介護保険制度が改正されました。また同時に診療報酬も改定され、在宅重視を理念とした国の方針も確認されました。当院もこの超高齢化社会到来を目前に激変する社会状況下において、時代のニーズに即応した形で3月に準備委員会を立ち上げ、4月より訪問リハビリテーションの運営を開始しています。

訪問リハビリテーションとは、『病気、けが、老齢などの理由で自宅療養なさっている方に対して、リハビリテーションの専門家が自宅を訪問し、可能な限り自宅においてその方の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、実際の生活の場で一人一人に合わせたリハビリテーションを提供する』ことが定義とされています。今回の改正により、訪問リハビリスタッフと地域の介護支援専門員等との連携や情報交換がより密接なものとなるよう強化されたことから、以前にも増した個性的かつ具体的な目標に向けてのリハビリテーションが可能となりました。

訪問リハビリテーションを開始して3ヶ月が経過しましたが、開始当初は事業立ち上げに必要な情報収集や訪問リハビリスタッフの研修、必要書類の作成準備等に試行錯誤しながらシステム作りに追われていました。また一方では地域の介護支援専門員や関係者、病院や開業医への挨拶や広報活動と、従来とは全く異なる業務に戸惑いながらも奔走し、現在では25名(6/25現在)の方にご利用いただいています。

利用者に対しては、ノーマライゼーションを標榜する施策と合致したよりきめ細かな対応が求められています。しかし、

訪問リハビリテーションの実施に費やす時間と、サービス担当者会議への出席や情報交換、報告書作成、医師との連携に同程度の時間を要するのが現状です。さらに、訪問リハビリスタッフとして、緊急時の対応や利用者宅の人的、物的な環境に慣れるまでの心理的負担がかなり強いのも事実です。訪問リハビリテーションを通して、高齢者の実際の在宅生活を目の当たりにし、病院でのリハビリテーションは常に在宅復帰を想定して提供していく必要があることも再認識させられます。

これまでは地域の介護支援専門員からの要請に応える形で、訪問リハビリテーションを実施するという流れでしたが、今後は当院の特色を活かした専門的な視点からの情報発信も必要になってくると思われます。常に利用者やその家族に思いを馳せながら、現実的かつ実効性のあるリハビリテーションを目指して、利用者・家族の視点に立ちながら喜んでいただけるアプローチをしていきたいと考えています。

最後に、今回のこの事業を開始するにあたり、院外の関係機関の皆様にも多大なご支援とご協力、励ましを頂きましたこと、紙面を借りまして御礼申し上げます。今後とも更なる、ご指導ご協力の程お願いいたします。



医療の現場から ～治療トピックス～

シリーズ～人工股関節置換術②

整形外科部長 池田 登



本号では、前号で紹介した人工股関節について、その手術の現状、その後の生活について紹介いたします。

4. 人工関節手術の実際

実際の手術時間は1時間半から3時間くらいです。難しい入れ替えの手術ではさらに時間がかかることがあります。

皮膚の切開の大きさについては、昨今整形外科で話題となっていますが、当院では15センチほど皮膚を切って手術を行っています。これは親指とひとさし指を広げた長さです。やせている人ではもう少し短め、太っている人ではもう少し長めなることもあります。もっと小さな皮膚切開でもっと早く手術ができないかという要望もありますが、できるだけ丁寧に確実な手術を行わせて頂いているので、上記の時間と皮膚切開の大きさが必要と考えています。

当院では年間100例を超える人工股関節手術を行っています。これはマスコミ誌上の人工関節ランキングでは、全国で常にトップテンに入っています。経験豊富な医師が丁寧に確実な手術を心がけて行っています。

手術はクリーンルームという特殊な設備が施された部屋で行われております。人工股関節の致命傷と言われる感染症の発生は、過去10年間、当院で人工股関節置換術をはじめてうけた患者さんにはおられません。きわめて稀に手術後の脱臼はありますが、患者さんが転倒したり、無理な肢位を強制されたりした場合にのみ発生しており、脱臼がくせになった患者さんはやはり過去10年間、当院ではじめて人工股関節置換術をうけた患者さんにはおられません。

5. 人工股関節の耐久性

最近、当院で行われた初期の人工股関節で20年以上経過した患者さんの検診結果をまとめました。手術を受けられた方は125人おられましたが、39人が死亡されており、32人を検診できました。手術をうけられた時の年齢は26歳から64歳、平均46歳でした。そのなかで再手術を受けた人の割合は27%で7割以上の方が20年以上再手術なく生活されていました。ただそのうち2割の人がレントゲンでは人工関節



クリーンルームでの手術の様子

のゆるみを認め、再手術が必要と思われました。つまり10人のうち6人は当時の人工材料と手術技術で問題なく20年以上生活していたということです。いまでは、人工関節の素材やそれを固定するセメントの進歩、セメントレス人工関節の開発、さらには手術を行う整形外科医の技術も向上しており、この数字はもっと高くなり、ほとんどの人が20年以上普通の生活ができるものと考えています。

6. 検診の重要性

図11は51歳の時に手術が行われ、現在75歳になられている患者さんのレントゲン写真です。全く痛みもなく、レントゲンでもセメントはしっかりと骨に固定されており、ポリエチレンの摩耗もわずかです。上記5に書いた20年以上の成績やこの長期経過例などの情報は手術をする側にとっても、受ける側にとっても重要です。よく患者さんから「人工関節って何年もつのですか」といった質問を受けます。この答えを出すのは手術を受けた患者さんしかいません。また痛みがなくても、レントゲンを撮れば、人工関節のゆるみが進んでいる場合もしばしば経験しています。手術を受けられた方は、年に1回は必ず病院を受診してレントゲンを撮って医師の診察を受けてください。

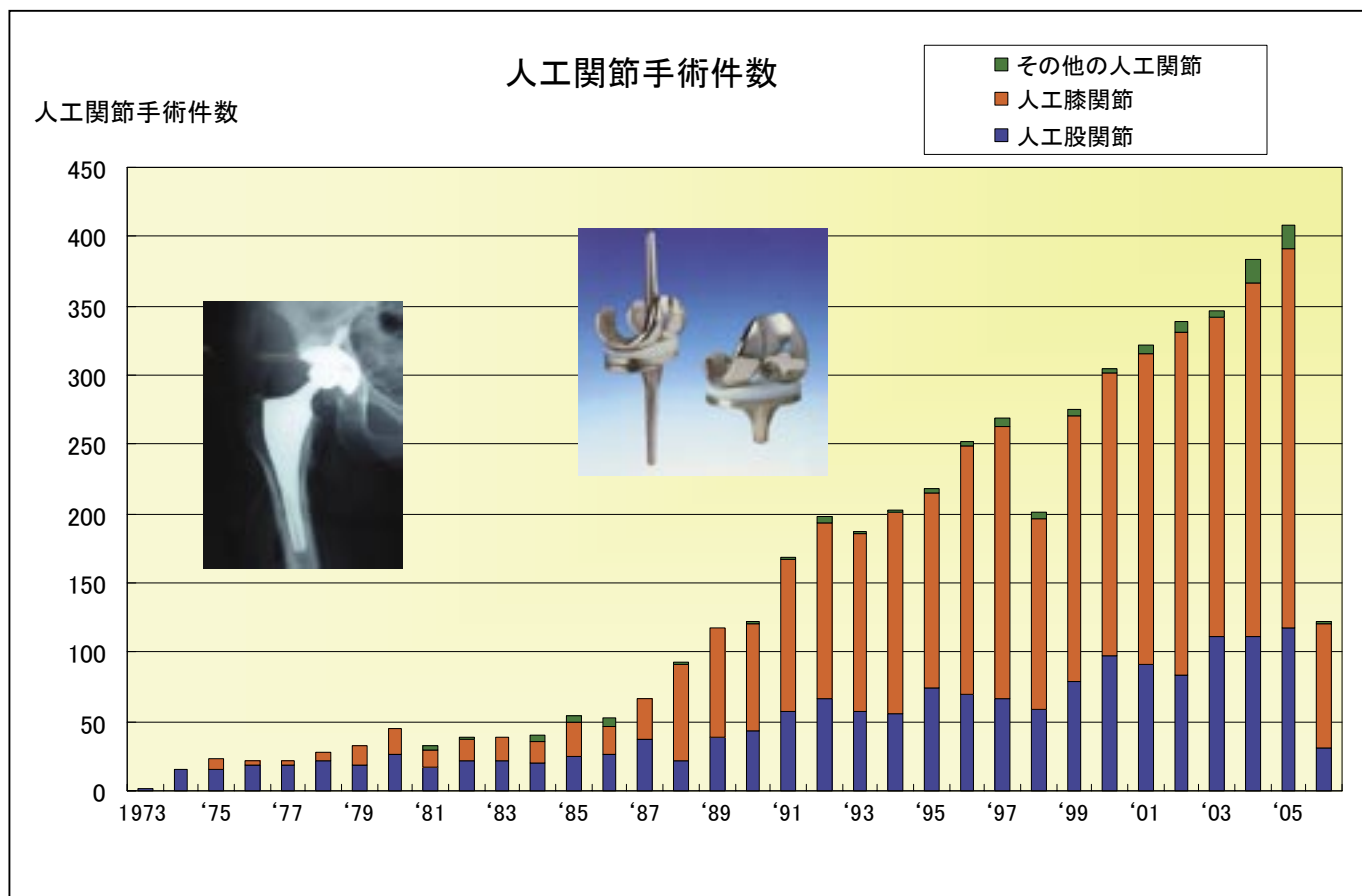


図11-1：手術時（51歳当時）



図11-2：75歳時

最後に、人工関節の発展は医者の研究だけでなく、手術を受けられた患者さんの協力なしにはありえないということを強調してこの稿を終わります。



ケーキ作りサークル

ケーキ作りサークルは、約3年前より月に1度、土曜日に6、7人のグループでケーキ作りを勉強しています。ケーキ作りに関してプロ級の腕前の先生のお宅でケーキ作りを楽しみながらわいわいがやがやと手と口を縦横無尽に操りながら勉強しています。メンバーは週によって、また、皆の都合によって、色々です。レモンのムース、ベリーのマフィン、キャラメルショコラケーキ、ストロベリーチーズケーキ、りんごのタルト、ブッシュドノエル、抹茶ケーキ、など名前を聞くだけでも食べたくなるケーキばかりです。様々な種類のケーキを、先生に用意していただいたレシピを見ながら皆で和気藹々と楽しみながら作成しています。

ケーキ作りもさることながら、後のティータイムは皆が最も楽しみにしているひとときです。その日に作ったケーキのほかに、先生が、前日から、手間隙かけて用意して下さっている様々なケーキを味わえるからです。タルトに、シフォン、シュークリーム、時には、パンや、ビーフシチューまで様々なおいしいお菓子を惜しげもなく出してくれます。

メンバーの楽しみは、この後まだまだ続きます。おなかいっぱいケーキをいただいた後、皆が持参した巨大なタッパーに我先にと残ったケーキを詰め、お土産にいただいて帰るのです。道理でメンバーの体格の良さはさすが、このケーキサークルのおかげなのです。

これからも、毎週色々のお菓子作りを楽しんで続けたいと思っています。
(M.A)



職員紹介



石部 達也
整形外科医長
平成18年4月1日採用

平成18年4月から、整形外科医長として赴任して参りました。生まれは山口県で、その後は京都と滋賀での生活を送ってきました。琵琶湖岸から穴道湖岸に引っ越してきて、同じ湖岸でも松江の魚のおいしさに感激し、食生活が肉から魚中心へと変わりつつあります。

当院に赴任して2ヶ月が経過して、徐々に仕事に慣れてきましたが、未だに5つもある病棟で右往左往しているときがあります。しかし、病院スタッフの方々の熱意とご厚意に接し、一層張り切っております。どうぞよろしくお願いいたします。



飯野 あかり
西2階病棟看護師
平成18年4月1日採用

この春看護学校を卒業し、4月より西2階病棟で働いています。初めてのことでばかりで、緊張や戸惑いの連続ですが、様々な患者さまと関わり色々な事を体験し、その1つ1つを積み重ねて成長していきたいと思っています。



伊藤 道代
西4階病棟看護師
平成18年4月1日採用

4月に就職して2ヶ月が過ぎ、病棟にも少しずつ慣れてきました。日々の患者様との関わりの中から“看護”について学ばせて頂いています。まだまだ慣れないことの方が多いのですが、早く一人前の看護師になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

**検査室スタッフ**

検査室の業務とは

病院で行なう検査は、患者様から採取した血液や尿、便などを調べる「検体検査」と、心電図や肺活量など、患者様を直接調べる「生理機能検査」の2つに大きく分けられます。医師は、様々な検査結果を解析して、患者様の診断や治療方針を決定します。また、病気の早期発見や予防、治療効果の判定にも検査は重要なのです。

当院で行なっている検査の一部を次に紹介します。

●検体検査

血液検査：血液の中の赤血球や血色素から貧血の程度を、白血球の多さから炎症の程度を把握します。

生化学検査：血液の中の糖質、タンパク質、ビタミン、ホルモンなどを調べ、臓器の異常を把握します。

免疫検査：免疫機能の状態を調べることで、体に侵入したウイルスなどを特定します

一般検査：尿、便などの成分を調べて腎臓や肝臓の異常をチェックしたり、寄生虫がいるか見たりします。

微生物検査：採取した検体を培養し、病気を引き起こす細菌などを検出します。

輸血検査：輸血のための血液型検査や血液の適合検査をします。

●生理機能検査

心電図：体に電極をつけて、心臓の状態を検査します。

呼吸機能検査：思いっきり息を吸ったりはいたりして、肺活量などを調べます

超音波検査：エコー検査ともいいます。体に超音波を当てて、各種臓器の状態を調べます。

眼底写真：眼の網膜の変化を眼底カメラで写真に撮ります。動脈硬化、糖尿病等で起こる変化を探ります。

神経伝導速度：手や足の神経の伝わる速度や筋肉の状態を調べる検査です。

当院ではこれらの検査を、6名の臨床検査技師が行なっています。正確に、早く検査結果を医師に伝えられるように努力しています。

(文責 野津 和美)



人工関節手術通算5000例記念式典と記念植樹

当院では1973年に西日本では先陣をきって、第1例目の人工関節の手術がなされて以来、人工関節手術に力を入れてきましたが、今年3月7日に通算でついに5000例目に達しました。一つの病院でこれだけ多くの人工関節手術は全国でもほとんどないと思われます。

人工関節手術は、変形性関節症や関節リウマチなどで破壊された関節を人工の関節に置き換える手術で、疼痛の消失、変形の矯正が可能で画期的手術になってきています。近年では人口の高齢化に伴い、この手術の増加が著しく、当院では年間400例以上を行っております。2005年10月の「玉造人工関節センター」の開設により、さらに充実した人工関節手術、リハビリを行っています。

5000例記念式典は、2006年4月12日に病院のロビーで行われました。3月7日に人工関節手術を受けられた方が4名ありましたので、この4名様に花束と記念品を贈呈し、上尾豊二院長および患者さま代表の挨拶もありました。その後、記念写真撮影、また、NHKや山陰中央新報の取材もあり、華やかなうちに終了いたしました。また、6月14日には記念植樹として、モクレンを玄関先の庭に植えました。モクレンの花言葉は、「持続性」だそうです。5000例を一つの通過点とし、今後もさらに継続して、実績・経験を積み重ね、最善の治療を目指したいと考えております。

(人工関節センター長 小谷 博信)



表紙の写真

コーヒーの木です。数年前100円で苗木を買いました。買った当時は葉が2枚しか無かったのですが、現在70cm位にまで成長しました。今年初めて花が咲きました。花の香りは結構強いです。花は白い色をしており、ジャスミンに似た香りがします。室温を15度以上に保てば、冬場でも大丈夫です。花言葉は「一緒に休みましょうか」。実が収穫出来るまでの期間は4～5年で、以後20年間は、コーヒーの実が収穫出来るそうです。赤くなった実は、「コーヒーチェリー」と呼ばれその実の中にコーヒー豆が2つ入っており、そのコーヒー豆を焙煎してドリップしてコーヒーが出来るのです。これから暑い夏に向います。少し休みながら、アイスコーヒーでも飲んで、夏を乗り切りましょう。(F.S)

編集後記

先日、大リーグシアトルマリナーズのイチロー選手の義姉である福島敦子氏の講演を聞く機会がありました。その中で「彼は決して天才ではなく、才能のある人である。野球を始めて以来、片時も努力を惜しまず今日までやってきた。一日も休まず努力を重ねてきたことが今日のイチローを築き上げている。」という一節がありました。彼に限らず、偉業を成し遂げた人たちは皆、一日一日の努力を積み重ねた人たちなんですね。

当院も歴史を積み重ねてきた病院です。我々スタッフ一同が努力を積み重ね、今後も地域の皆様のお役に立てる病院であり続けたいと思っています。(H.Y)

■ 編集・発行責任者 上尾 豊二

〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2

TEL 0852 (62) 1560

<http://tamahosp.jp>

夕映えのバックナンバーはホームページでもご覧になれます。